



# インストール前のチェックリスト

## ONTAP Select

NetApp  
January 29, 2026

# 目次

インストール前のチェックリスト	1
ホスト準備チェックリスト	1
ONTAP SelectのKVMホスト構成と準備のチェックリスト	1
ONTAP SelectのESXiホスト構成と準備チェックリスト	8
ONTAP Select Deployユーティリティのインストールに必要な情報	13
必要な構成情報	13
オプションのネットワーク構成情報	13
ONTAP Selectのインストールに必要な情報	13
クラスターレベルの情報	14
ホストレベルの情報	14
NVMeドライブを使用するようにONTAP Selectホストを構成する	14
ステップ1: ホストを構成する	14
ステップ2: ONTAP Select Deployユーティリティをインストールする	19

# インストール前のチェックリスト

## ホスト準備チェックリスト

### ONTAP SelectのKVMホスト構成と準備のチェックリスト

ONTAP Selectノードを導入する各KVMハイパーバイザーホストを準備します。ホストを準備する際には、導入環境を慎重に評価し、ホストが正しく設定され、ONTAP Selectクラスタの導入をサポートできる状態であることを確認します。



ONTAP Select Deploy管理ユーティリティは、ハイパーバイザーホストに必要なネットワークおよびストレージ設定を実行しません。ONTAP Selectクラスタを導入する前に、各ホストを手動で準備する必要があります。

#### ステップ1: KVMハイパーバイザーホストを準備する

ONTAP Selectノードが導入されている各Linux KVMサーバを準備する必要があります。また、ONTAP Select Deploy管理ユーティリティが導入されているサーバも準備する必要があります。

##### 手順

1. Red Hat Enterprise Linux (RHEL) をインストールします。

を使用してRHELオペレーティングシステムをインストールします。参照["ハイパーバイザーのソフトウェア互換性情報"](#)サポートされているRHELバージョンのリストについては、こちらをご覧ください。インストール中に、システムを次のように設定してください。

- a. セキュリティ ポリシーとして [デフォルト] を選択します。
- b. 仮想化ホスト ソフトウェアを選択します。
- c. 宛先がONTAP Selectで使用される RAID LUN ではなく、ローカル ブート ディスクであることを確認します。
- d. システムを起動した後、ホスト管理インターフェイスが起動していることを確認します。



/etc/sysconfig/network-scripts の下にある正しいネットワーク設定ファイルを編集し、`ifup`指示。

2. ONTAP Selectに必要な追加パッケージをインストールします。

ONTAP Selectには、いくつかの追加ソフトウェアパッケージが必要です。パッケージの正確なリストは、使用しているLinuxのバージョンによって異なります。まず、サーバでyumリポジトリが利用可能であることを確認してください。利用できない場合は、`wget your\_repository\_location`指示。



Linuxサーバーのインストール時にソフトウェア選択で仮想ホストを選択した場合、必要なパッケージの一部が既にインストールされている可能性があります。openvswitch下記のようにソースコードからopenvswitchパッケージをインストールする必要があるかもしれません。["Open vSwitch ドキュメント"](#)。

必要なパッケージやその他の構成要件の詳細については、"Interoperability Matrix Tool"。

### 3. NVMe ディスクの PCI パススルーを構成します。

構成でNVMeディスクを使用している場合は、KVMホストからONTAP Selectクラスタ内のローカル接続されたNVMeディスクに直接アクセスできるように、PCIパススルー (DirectPath IO) を設定する必要があります。以下のタスクを実行するには、直接アクセスが必要です。

- ° "NVMe ドライブを使用するようにKVMホストを構成する"
- ° "クラスタを展開した後はソフトウェアRAIDを使用する"

参照["Red Hat ドキュメント"KVM ハイパーバイザーの PCI パススルー \(DirectPath IO\) を構成する方法](#)については、こちらをご覧ください。

### 4. ストレージ プールを構成します。

ONTAP Selectストレージプールは、基盤となる物理ストレージを抽象化する論理データコンテナです。ONTAPが導入されているKVMホスト上でストレージプールを管理する必要があります。

#### ステップ2: ストレージプールを作成する

各ONTAP Selectノードに少なくとも1つのストレージプールを作成してください。ローカルハードウェアRAIDではなくソフトウェアRAIDを使用する場合、ルートアグリゲートとデータアグリゲート用のストレージディスクがノードに接続されます。この場合でも、システムデータ用のストレージプールを作成する必要があります。

##### 開始する前に

ONTAP Select が導入されているホスト上の Linux CLI にサインインできることを確認します。

##### タスク概要

ONTAP Select Deploy管理ユーティリティでは、ストレージプールのターゲットの場所を次のように指定する必要があります。/dev/<pool\_name>、どこ`<pool\_name>`ホスト上の一意のプール名です。



ストレージ プールを作成すると、LUN の全容量が割り当てられます。

##### 手順

1. Linux ホスト上のローカル デバイスを表示し、ストレージ プールを格納する LUN を選択します。

```
lsblk
```

適切な LUN は、おそらく、ストレージ容量が最も大きいデバイスです。

2. デバイス上のストレージ プールを定義します。

```
virsh pool-define-as <pool_name> logical --source-dev <device_name>
--target=/dev/<pool_name>
```

例えば：

```
virsh pool-define-as select_pool logical --source-dev /dev/sdb  
--target=/dev/select_pool
```

3. ストレージ プールを構築します。

```
virsh pool-build <pool_name>
```

4. ストレージ プールを起動します。

```
virsh pool-start <pool_name>
```

5. システムの起動時にストレージ プールが自動的に開始されるように構成します。

```
virsh pool-autostart <pool_name>
```

6. ストレージ プールが作成されたことを確認します。

```
virsh pool-list
```

**ステップ3:** オプションでストレージプールを削除する

ストレージ プールは不要になったら削除できます。

開始する前に

ONTAP Select が導入済みの Linux CLI にサインインできることを確認します。

タスク概要

ONTAP Select Deploy管理ユーティリティでは、ストレージプールのターゲットの場所を次のように指定する必要があります。 /dev/<pool\_name>、 どこ `<pool\_name>` ホスト上の一意のプール名です。

手順

1. ストレージ プールが定義されていることを確認します。

```
virsh pool-list
```

2. ストレージ プールを破棄します。

```
virsh pool-destroy <pool_name>
```

3. 非アクティブなストレージ プールの構成を定義解除します。

```
virsh pool-undefine <pool_name>
```

4. ストレージ プールがホストから削除されたことを確認します。

```
virsh pool-list
```

5. ストレージ プール ボリューム グループのすべての論理ボリュームが削除されていることを確認します。

- a. 論理ボリュームを表示します。

```
lvs
```

- b. プールに論理ボリュームが存在する場合は、それらを削除します。

```
lvremove <logical_volume_name>
```

6. ボリューム グループが削除されたことを確認します。

- a. ボリューム グループを表示します。

```
vgs
```

- b. プールにボリューム グループが存在する場合は、それを削除します。

```
vgremove <volume_group_name>
```

7. 物理ボリュームが削除されたことを確認します。

- a. 物理ボリュームを表示します。

```
pvs
```

- b. プールに物理ボリュームが存在する場合は、それを削除します。

```
pvremove <physical_volume_name>
```

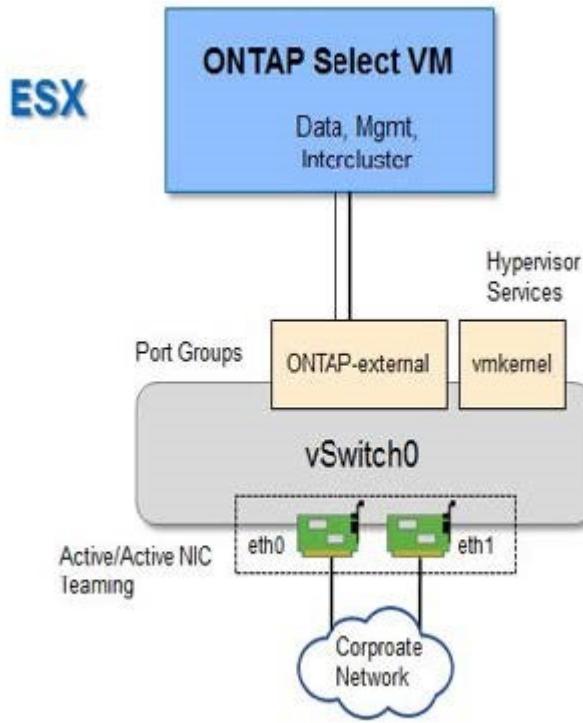
#### ステップ4: ONTAP Selectクラスタ構成を確認する

ONTAP Selectは、マルチノードクラスタまたはシングルノードクラスタのいずれかで導入できます。多くの場合、追加のストレージ容量と高可用性（HA）機能があるため、マルチノードクラスタが推奨されます。

次の図は、ESXi ホストの単一ノード クラスタと 4 ノード クラスタで使用されるONTAP Selectネットワークを示しています。

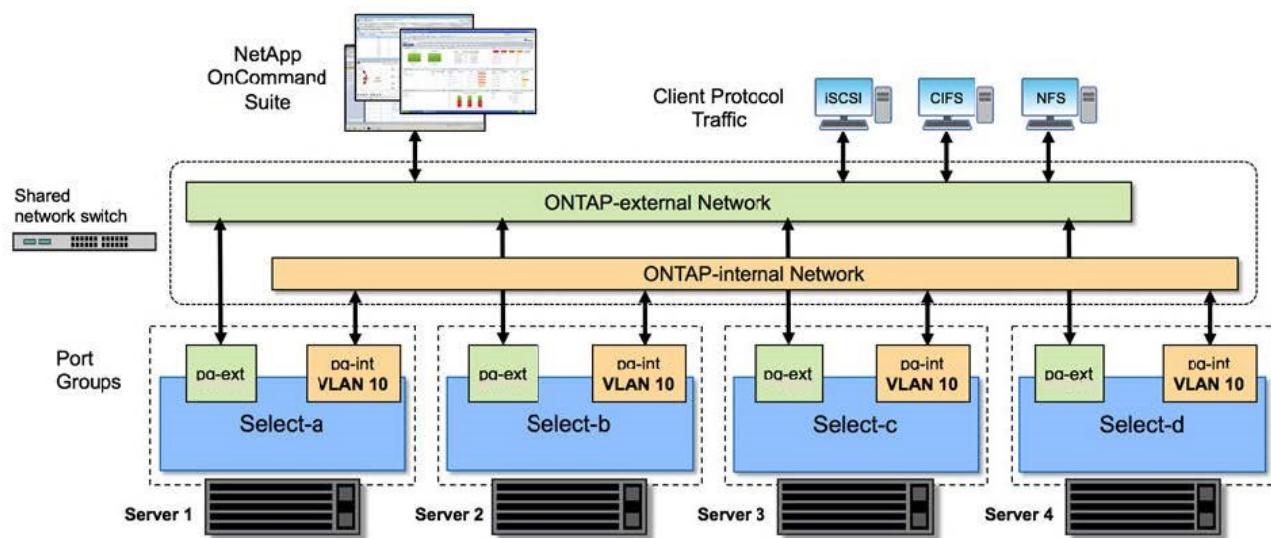
## 單一ノードクラスタ

次の図は、單一ノードクラスタを示しています。外部ネットワークは、クライアント、管理、およびクラスタ間レプリケーション (SnapMirror/ SnapVault) のトラフィックを伝送します。



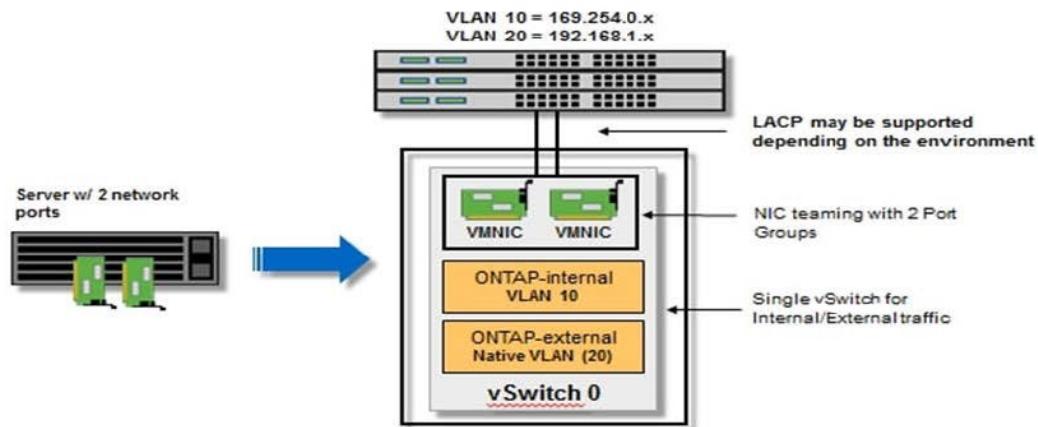
## 4ノードクラスター

次の図は、2つのネットワークを示す4ノードクラスターを示しています。内部ネットワークは、ONTAPクラスタネットワークサービスをサポートするためにノード間の通信を可能にします。外部ネットワークは、クライアント、管理、およびクラスタ間レプリケーション (SnapMirror/ SnapVault) のトラフィックを伝送します。



#### 4ノードクラスタ内の單一ノード

次の図は、4ノードクラスタ内の單一のONTAP Select仮想マシンの一般的なネットワーク構成を示しています。ONTAP内部ONTAPとONTAP外部ネットワークという2つの独立したネットワークがあります。



#### ステップ5: Open vSwitchを構成する

Open vSwitch を使用して、各 KVM ホスト ノードにソフトウェア定義スイッチを構成します。

開始する前に

ネットワーク マネージャーが無効になっており、ネイティブ Linux ネットワーク サービスが有効になっていることを確認します。

タスク概要

ONTAP Select には 2 つの個別のネットワークが必要であり、どちらもポート ボンディングを利用してネットワークに HA 機能を提供します。

手順

1. ホスト上で Open vSwitch がアクティブであることを確認します。

- a. Open vSwitch が実行中かどうかを確認します。

```
systemctl status openvswitch
```

- b. Open vSwitch が実行されていない場合は、起動します。

```
systemctl start openvswitch
```

2. Open vSwitch の構成を表示します。

```
ovs-vsctl show
```

ホスト上で Open vSwitch がまだ構成されていない場合は、構成は空で表示されます。

### 3. 新しい vSwitch インスタンスを追加します。

```
ovs-vsctl add-br <bridge_name>
```

例えば：

```
ovs-vsctl add-br ontap-br
```

### 4. ネットワーク インターフェイスを停止します。

```
ifdown <interface_1>
ifdown <interface_2>
```

### 5. リンク集約制御プロトコル (LACP) を使用してリンクを結合します。

```
ovs-vsctl add-bond <internal_network> bond-br <interface_1>
<interface_2> bond_mode=balance-slb lacp=active other_config:lacp-
time=fast
```



インターフェースが複数ある場合にのみ、ボンドを構成する必要があります。

### 6. ネットワーク インターフェイスを起動します。

```
ifup <interface_1>
ifup <interface_2>
```

## ONTAP Selectの ESXi ホスト構成と準備チェックリスト

ONTAP Selectノードを導入する各ESXiハイパーバイザーホストを準備します。ホストを準備する際には、導入環境を慎重に評価し、ホストが正しく設定され、ONTAP Select クラスタの導入をサポートできる状態であることを確認します。



ONTAP Select Deploy管理ユーティリティは、ハイパーバイザーホストに必要なネットワーク およびストレージ設定を実行しません。ONTAP ONTAP Select クラスタを導入する前に、各ホストを手動で準備する必要があります。

## ステップ1: ESXiハイパーバイザーホストを準備する

ESXi ホストとファイアウォール ポートの構成を確認します。

手順

1. 各 ESXi が次のように構成されていることを確認します。
  - プリインストールされサポートされているハイパーバイザー
  - VMware vSphere ライセンス
2. 同じ vCenter Server が、クラスタ内にONTAP Selectノードが展開されているすべてのホストを管理できることを確認します。
3. ファイアウォールポートがvSphereへのアクセスを許可するように設定されていることを確認してください。ONTAPONTAP Select仮想マシンへのシリアルポート接続をサポートするには、これらのポートが開いている必要があります。

### 推奨

NetApp、vSphere へのアクセスを許可するために次のファイアウォール ポートを開くことを推奨しています。

- ポート7200～7400 (受信トラフィックと送信トラフィックの両方)

### デフォルト

デフォルトでは、VMware は次のポートへのアクセスを許可します。

- ポート22およびポート1024～65535 (受信トラフィック)
- ポート0～65535 (送信トラフィック)

詳細については、 "[Broadcom VMware vSphere ドキュメント](#)"。

4. 必要な vCenter 権限について理解しておいてください。見る "[VMware vCenter Server](#)" 詳細についてはこちらをご覧ください。

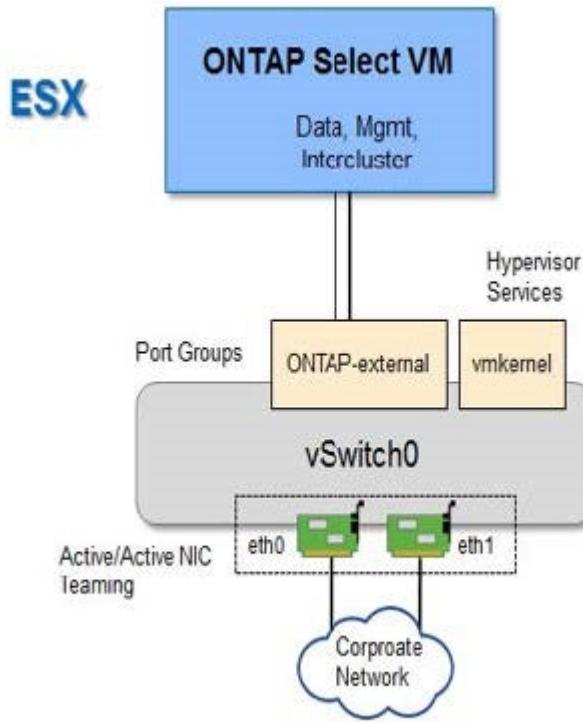
## ステップ2: ONTAP Selectクラスタ構成を確認する

ONTAP Selectは、マルチノードクラスタまたはシングルノードクラスタのいずれかで導入できます。多くの場合、追加のストレージ容量と高可用性 (HA) 機能があるため、マルチノードクラスタが推奨されます。

次の図は、単一ノード クラスタと 4 ノード クラスタで使用されるONTAP Selectネットワークを示しています。

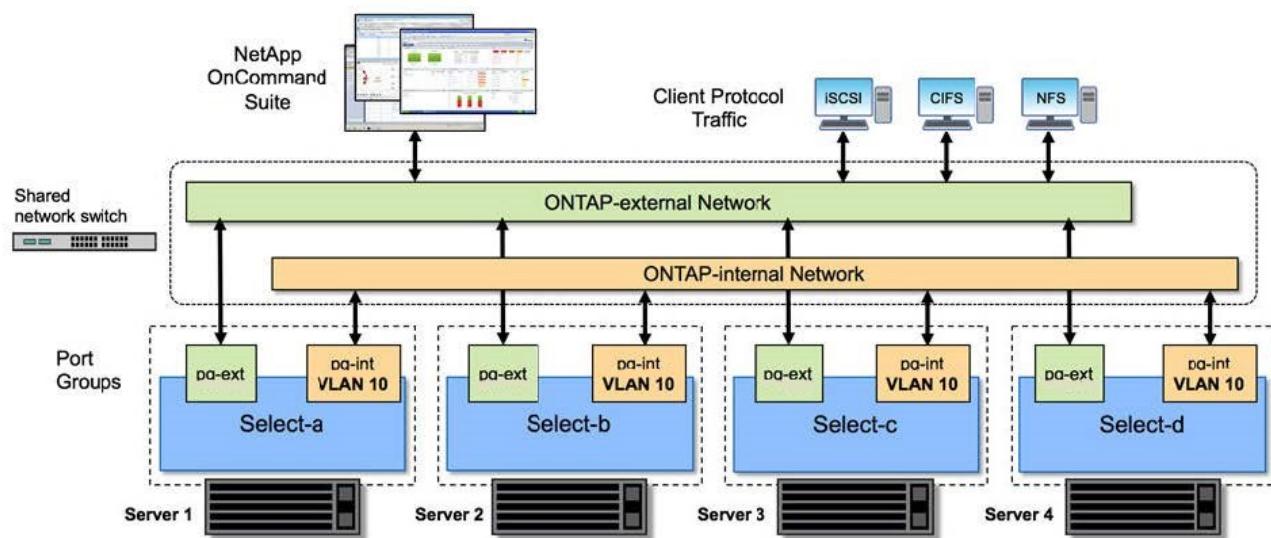
## 單一ノードクラスタ

次の図は、單一ノードクラスタを示しています。外部ネットワークは、クライアント、管理、およびクラスタ間レプリケーション (SnapMirror/ SnapVault) のトラフィックを伝送します。



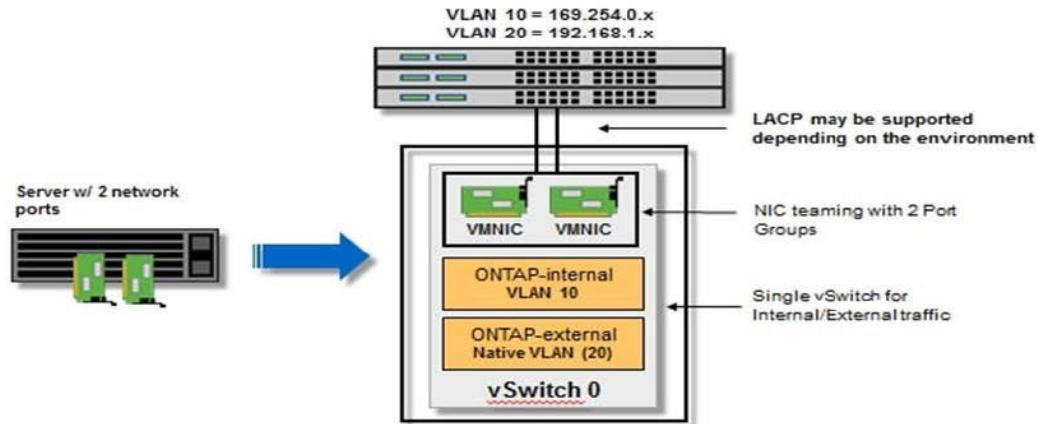
## 4ノードクラスター

次の図は、2つのネットワークを示す4ノードクラスターを示しています。内部ネットワークは、ONTAPクラスタネットワークサービスをサポートするためにノード間の通信を可能にします。外部ネットワークは、クライアント、管理、およびクラスタ間レプリケーション (SnapMirror/ SnapVault) のトラフィックを伝送します。



#### 4ノードクラスタ内の單一ノード

次の図は、4ノードクラスタ内の單一のONTAP Select仮想マシンの一般的なネットワーク構成を示しています。ONTAP内部ONTAPとONTAP外部ネットワークという2つの独立したネットワークがあります。



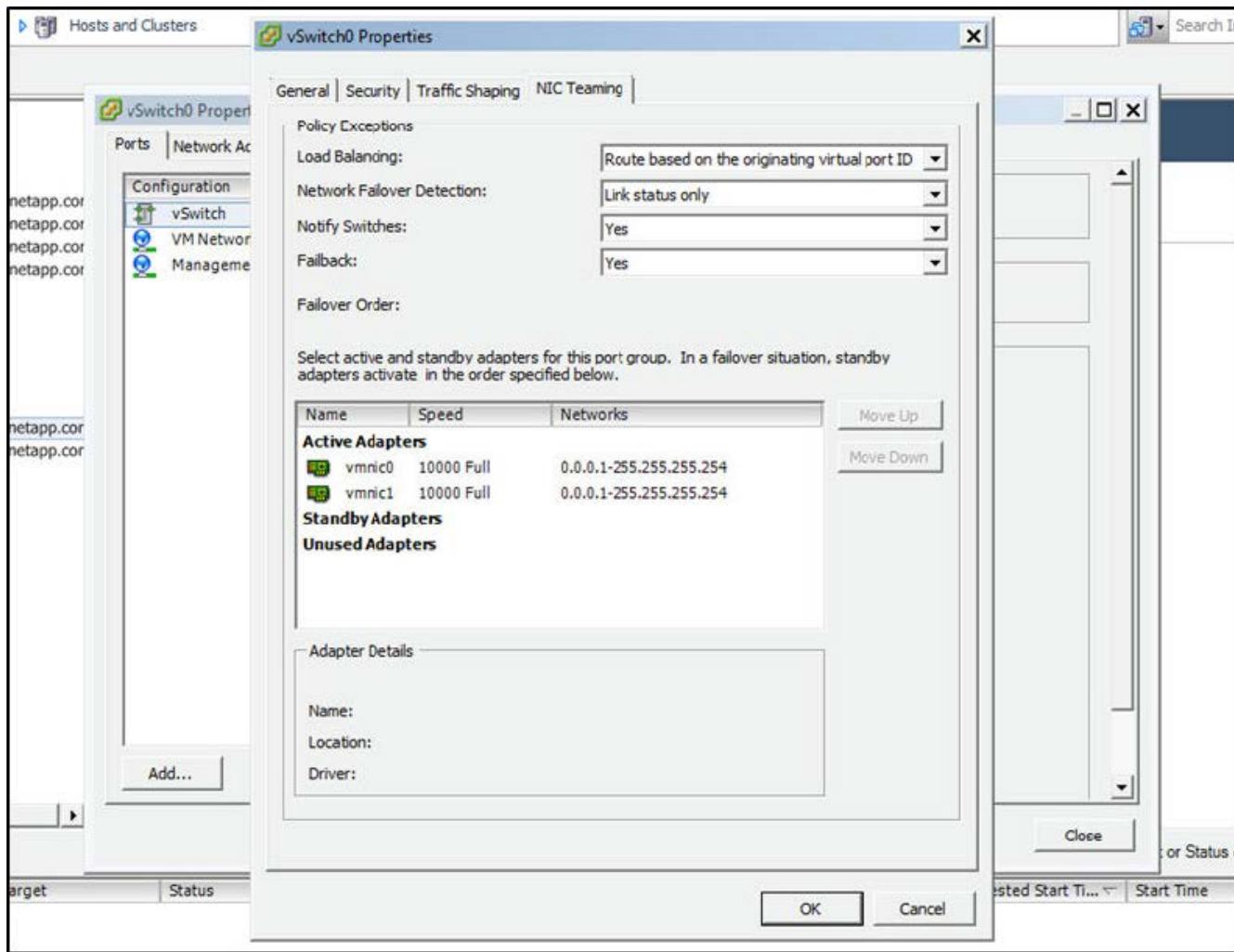
#### ステップ3: Open vSwitchを構成する

vSwitchは、内部ネットワークと外部ネットワークの接続をサポートするために使用される、ハイパーバイザーの中核コンポーネントです。各ハイパーバイザーvSwitchの設定では、いくつか考慮すべき点があります。

次の手順は、一般的なネットワーク環境で 2 つの物理ポート (2x10Gb) を備えた ESXi ホストの vSwitch 構成用です。

##### 手順

1. "vSwitchを設定し、両方のポートをvSwitchに割り当てます"。
2. "2つのポートを使用してNICチームを作成する"。
3. 負荷分散ポリシーを「発信元仮想ポート ID に基づいてルートする」に設定します。
4. 両方のアダプタを「アクティブ」としてマークするか、1つのアダプタを「アクティブ」としてマークし、もう 1 つを「スタンバイ」としてマークします。
5. 「フェイルバック」設定を「はい」に設定します。



6. ジャンボ フレーム (9000 MTU) を使用するように vSwitch を構成します。
7. 内部トラフィック (ONTAP-internal) 用に vSwitch 上のポート グループを構成します。
  - ポート グループは、クラスタ、HA 相互接続、およびミラーリング トラフィックに使用されるONTAP Select仮想ネットワーク アダプタ e0c-e0g に割り当てられます。
  - このネットワークはプライベートネットワークとなるため、ポートグループはルーティング不可能なVLAN上に配置する必要があります。この点を考慮して、ポートグループに適切なVLANタグを追加してください。
  - ポート グループの負荷分散、フェイルバック、フェイルオーバー順序の設定は、vSwitch と同じにする必要があります。
8. 外部トラフィック用に vSwitch 上のポート グループを構成します (ONTAP-external)。
  - ポート グループは、データおよび管理トラフィックに使用されるONTAP Select仮想ネットワーク アダプタ e0a ~ e0c に割り当てられます。
  - ポートグループはルーティング可能なVLAN上に配置できます。ネットワーク環境に応じて、適切なVLANタグを追加するか、ポートグループをVLANトランкиング用に設定する必要があります。
  - ポート グループの負荷分散、フェイルバック、フェイルオーバー順序の設定は、vSwitch と同じにする必要があります。

# ONTAP Select Deployユーティリティのインストールに必要な情報

ハイパーバイザー環境に Deploy 管理ユーティリティをインストールする前に、必要な構成情報とオプションのネットワーク構成情報を確認して、正常な展開を準備します。

## 必要な構成情報

導入計画の一環として、ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティをインストールする前に、必要な設定情報を決定する必要があります。

必要な情報	説明
デプロイ仮想マシンの名前	仮想マシンに使用する識別子。
ハイパーバイザーホストの名前	デプロイ ユーティリティがインストールされている VMware ESXi または KVM ハイパーバイザーホストの識別子。
データストアの名前	仮想マシン ファイルを保持するハイパーバイザーデータストアの識別子 (約 40 GB 必要)。
仮想マシンのネットワーク	デプロイ仮想マシンが接続されているネットワークの識別子。

## オプションのネットワーク構成情報

Deploy仮想マシンはデフォルトでDHCPを使用して構成されます。ただし、必要に応じて、仮想マシンのネットワークインターフェースを手動で構成することもできます。

ネットワーク情報	説明
ホスト名	ホストマシンの識別子。
ホストのIPアドレス	ホストマシンの静的 IPv4 アドレス。
サブネットマスク	仮想マシンが属するネットワークに基づくサブネットワークマスク。
ゲートウェイ	デフォルトゲートウェイまたはルーター。
プライマリDNSサーバー	プライマリ ドメインネームサーバー。
セカンダリDNSサーバー	セカンダリ ドメインネームサーバー。
検索ドメイン	使用する検索ドメインのリスト。

## ONTAP Selectのインストールに必要な情報

VMware 環境にONTAP Selectクラスタを導入する準備の一環として、ONTAP Select Deploy 管理ユーティリティを使用してクラスタを導入および設定するときに必要な情報を収集します。

収集する情報の一部はクラスター自体に適用されますが、その他の情報はクラスター内の個々のノードに適用されます。

## クラスターレベルの情報

ONTAP Selectクラスタに関する情報を収集する必要があります。

クラスタ情報	説明
クラスターの名前	クラスターの一意の識別子。
ライセンスモード	評価または購入したライセンス。
クラスターのIP構成	クラスタとノードのIP構成。これには以下が含まれます: * クラスタの管理IPアドレス * サブネットマスク * デフォルトゲートウェイ

## ホストレベルの情報

ONTAP Selectクラスタ内の各ノードに関する情報を収集する必要があります。

クラスタ情報	説明
ホスト名	ホストの一意の識別子。
ホストのドメイン名	ホストの完全修飾ドメイン名。
ノードのIP設定	クラスター内の各ノードの管理 IP アドレス。
ミラーノード	HA ペア内の関連ノードの名前 (マルチノード クラスターのみ)。
ストレージ プール	使用されているストレージ プールの名前。
ストレージディスク	ソフトウェア RAID を使用している場合のディスクのリスト。
シリアル番号	購入したライセンスを使用して導入する場合は、NetAppから提供される一意の 9 術のシリアル番号。

## NVMe ドライブを使用するようにONTAP Select ホストを構成する

NVMe ドライブをソフトウェア RAID で使用する予定の場合は、ドライブを認識するように ESXi または KVM ホストを構成する必要があります。

NVMe デバイスで VMDirectPath I/O パススルーを使用することで、データ効率を最大化できます。この設定により、ドライブがONTAP Select仮想マシンに公開され、ONTAPがデバイスに直接PCIアクセスできるようになります。

### ステップ1: ホストを構成する

ドライブを認識するように ESXi または KVM ホストを構成します。

開始する前に

展開環境が次の最小要件を満たしていることを確認してください。

- ESXホストの場合、サポートされているDeploy管理ユーティリティを備えたONTAP Select
- KVMホストの場合、サポートされているDeploy管理ユーティリティを備えたONTAP Select 9.17.1

- ・プレミアムXLプラットフォームライセンスまたは90日間の評価ライセンス
- ・ESXi または KVM ホストは、サポートされているハイパーバイザー バージョンを実行しています。

### ESXi

ESXi は次のハイパーバイザー バージョンでサポートされています。

- VMware ESXi 9.0
- VMware ESXi 8.0 U3
- VMware ESXi 8.0 U2
- VMware ESXi 8.0 U1 (ビルド 21495797)
- VMware ESXi 8.0 GA (ビルド 20513097)
- VMware ESXi 7.0 GA (ビルド 15843807 以降) 、7.0 U1、U2、U3C を含む

### KVM

KVM は次のハイパーバイザー バージョンでサポートされています。

- Red Hat Enterprise Linux (RHEL) 10.1、10.0、9.7、9.6、9.5、9.4、9.2、9.1、9.0、8.8、8.7、および8.6
- Rocky Linux 10.1、10.0、9.7、9.6、9.5、9.4、9.3、9.2、9.1、9.0、8.9、8.8、8.7、および8.6

RHEL 10.1および10.0、Rocky Linux 10.1および10.0ホスト上のKVMハイパーバイザーには、ソフトウェア RAIDワークフローの制限があります。詳細については、以下のナレッジベースの記事をご覧ください：

- ["CDEPLOY-4020: ONTAP Select Deploy: RHEL 10 および ROCKY 10 を使用してクラスタ HWR を作成中に警告メッセージが表示される"](#)
- ["CDEPLOY-4025: ONTAP Select DeployGUI: RHEL10/Rocky 10 を搭載したホスト上のクラスタ作成ページで、SWR のストレージ プールとストレージ ディスクが表示されない"](#)

- ・仕様1.0以降に準拠したNVMeデバイス

フォロー"ホスト準備チェックリスト"、必要な情報を確認してください"デプロイユーティリティのインストール"そして"ONTAP Selectのインストール"詳細についてはこちらをご覧ください。

### タスク概要

この手順は、新しいONTAP Selectクラスタを作成する前に実行する必要があります。既存のソフトウェア RAID NVMeクラスタに追加のNVMeドライブを設定する手順も実行できます。この場合、ドライブを設定した後、SSDドライブを追加する場合と同様に、Deployを使用してドライブを追加する必要があります。主な違いは、DeployがNVMeドライブを検出し、ノードを再起動することです。既存のクラスタにNVMeドライブを追加する場合は、再起動プロセスについて次の点に注意してください。

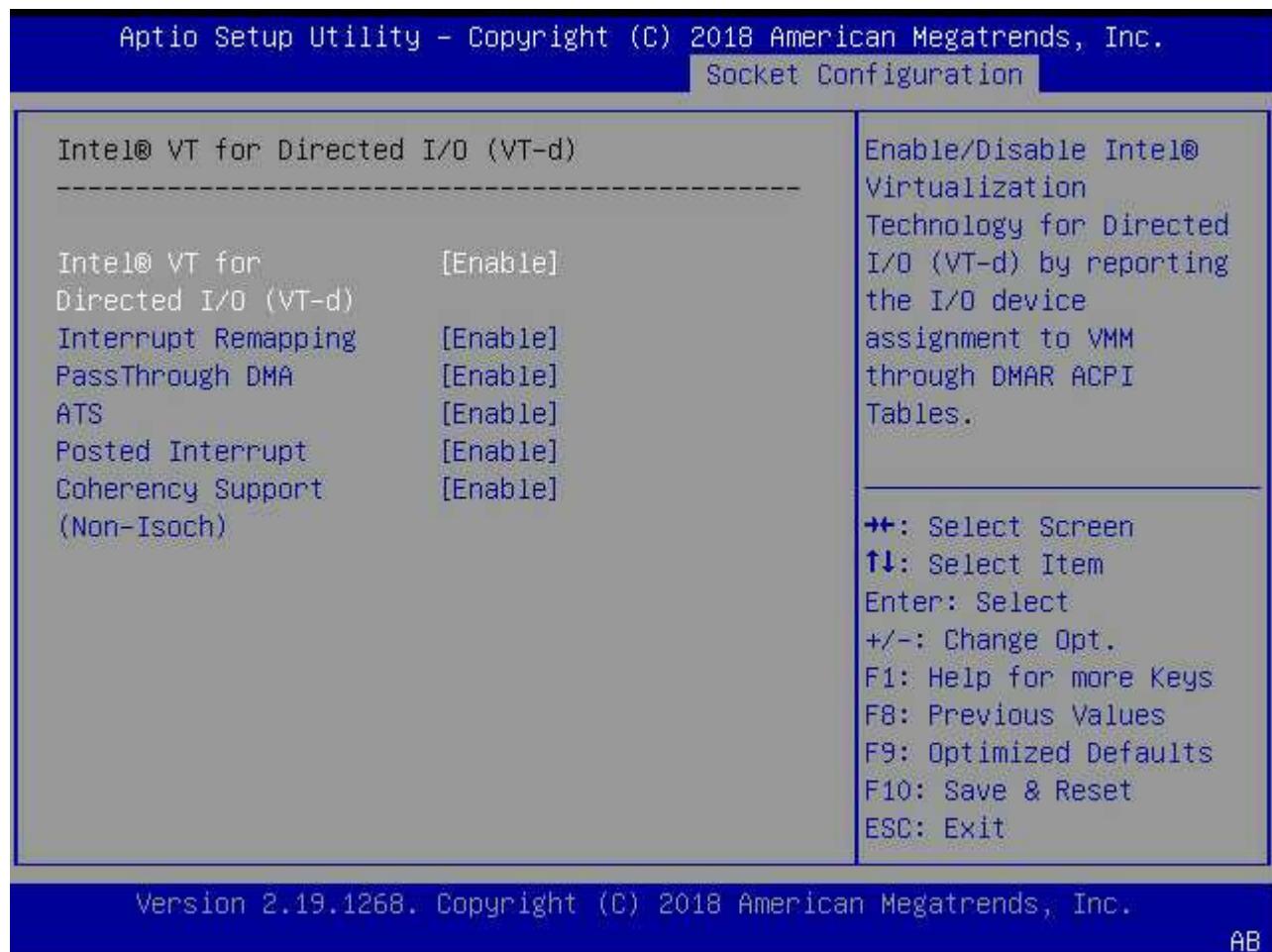
- ・デプロイは再起動オーケストレーションを処理します。
- ・HA テイクオーバーとギブバックは順番に実行されますが、アグリゲートの再同期には時間がかかる場合があります。

- ・単一ノード クラスターではダウンタイムが発生します。

見る"ストレージ容量を増やす"追加情報については。

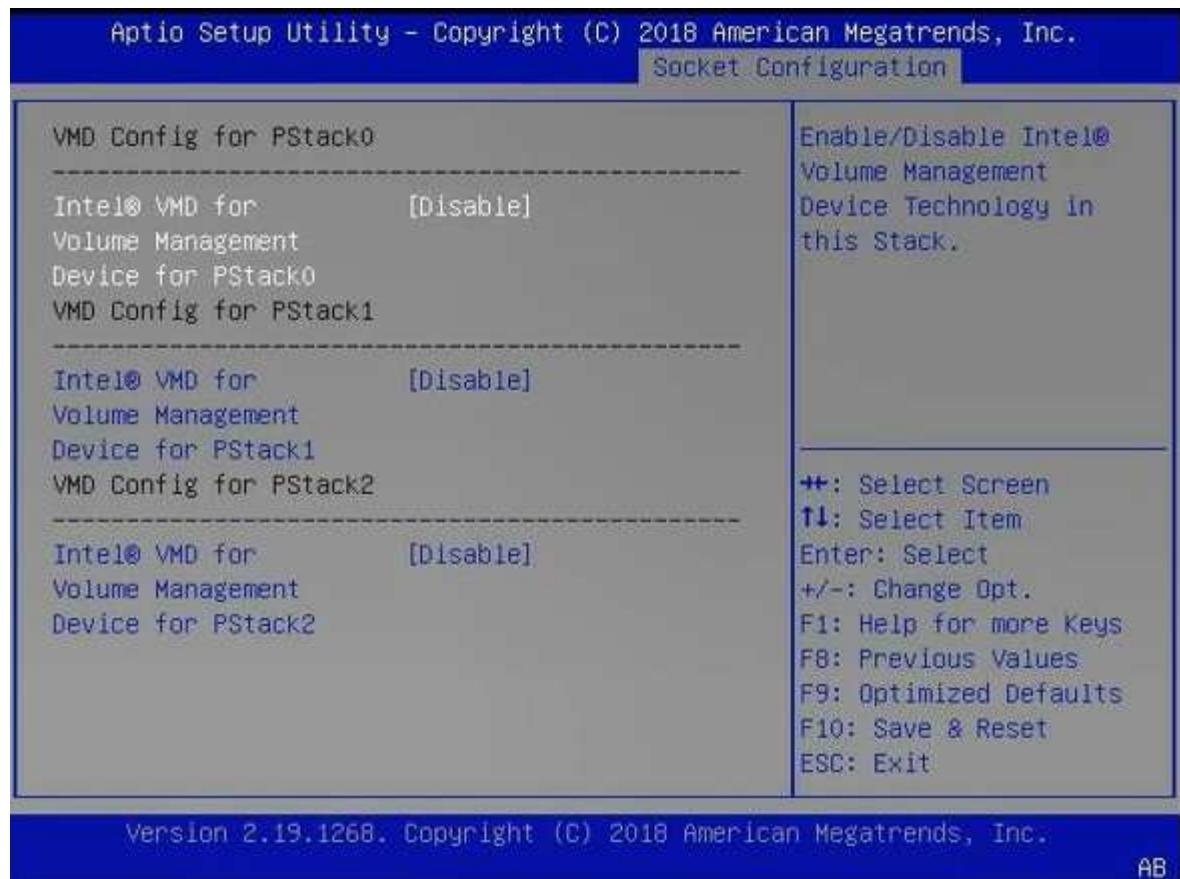
手順

1. I/O 仮想化のサポートを有効にするには、ホストの **BIOS** 構成 メニューにアクセスします。
2. **Intel VT for Directed I/O (VT-d)** 設定を有効にします。



AB

3. 一部のサーバーでは、**Intel Volume Management Device (Intel VMD)** がサポートされています。これを有効にすると、利用可能なNVMeデバイスがESXiまたはKVM/ハイパーバイザーから見えなくなります。続行する前に、このオプションを無効にしてください。



4. NVMe ドライブを仮想マシンへのパススルー用に構成します。

- vSphere で、ホストの構成 ビューを開き、ハードウェア: **PCI** デバイス の下にある 編集 を選択します。
- ONTAP Selectに使用する NVMe ドライブを選択します。

次の出力例は、ESXi ホストで使用可能なドライブを示しています。

## Edit PCI Device Availability

sdot-dl380-003.gdl.englab.netapp.com

X

ID	Status	Vendor Name	Device Name	ESX/ESXi Device
0000:36:01.0	Not Configurable	Intel Corporation	Sky Lake-E PCI Express...	
0000:38:00.0	Available (pending)	Seagate Technology ...	Nytro Flash Storage	
0000:36:02.0	Not Configurable	Intel Corporation	Sky Lake-E PCI Express...	
0000:39:00.0	Available (pending)	Seagate Technology ...	Nytro Flash Storage	

No items selected

CANCEL

OK



ONTAP Select VMシステムディスクと仮想NVRAMをホストするには、NVMeデバイスでバックアップされたVMFSデータストアが必要です。他のNVMeドライブをPCIバススルーユニットに設定する際には、この目的のために少なくとも1つのNVMeドライブを確保してください。

a. 「OK」を選択します。選択したデバイスは「利用可能（保留中）」と表示されます。

5. \*このホストを再起動\*を選択します。

次の出力例は、ESXi ホストの場合です。

Configure    Permissions    VMs    Datastores    Networks    Updates

DirectPath I/O PCI Devices Available to VMs

REFRESH    EDIT...

ID	Status	Vendor Name	Device Name
0000:12:00.0	Available (pending)	Seagate Technology PLC	Nytro Flash Storage
0000:13:00.0	Available (pending)	Seagate Technology PLC	Nytro Flash Storage
0000:14:00.0	Available (pending)	Seagate Technology PLC	Nytro Flash Storage
0000:15:00.0	Available (pending)	Seagate Technology PLC	Nytro Flash Storage
0000:37:00.0	Available (pending)	Seagate Technology PLC	Nytro Flash Storage
0000:38:00.0	Available (pending)	Seagate Technology PLC	Nytro Flash Storage

7 devices will become available when this host is rebooted. [Reboot This Host](#)

## ステップ2: ONTAP Select Deployユーティリティをインストールする

ホストの準備が完了したら、ONTAP Select Deployユーティリティをインストールできます。Deployは、新しく準備したホスト上にONTAP Selectストレージクラスタを作成する手順をガイドします。このプロセス中に、Deployはバススルーユ用に設定されたNVMeドライブの存在を検出し、ONTAPデータディスクとして使用するために自動的に選択します。必要に応じて、デフォルトの選択を調整できます。



各ONTAP Selectノードでは最大14個のNVMeデバイスがサポートされます。

次の出力例は、ESXiホストの場合です。

The screenshot shows the ONTAP Select Deploy interface. At the top, there are tabs for Clusters, Hypervisor Hosts, and Administration, with Clusters selected. Below the tabs, the word 'Storage' is displayed. The main area is titled 'Storage Configuration' and shows 'RAID Type' set to 'Software RAID' and 'Data Disk Type' set to 'NVME'. Under 'System Disk', it shows 'nvme-snc-01' and 'sdot-dl380-003-nvme(NVME)' with a capacity of '1.41 TB'. Below this, a table titled 'Data Disks for nvme-snc-01' lists seven NVME disks, all of which are selected (indicated by a checked checkbox). The table columns are 'Device Name', 'Device Type', and 'Capacity'. At the bottom of the table, it says 'Selected Capacity: (7/7 disks)'. A 'Done' button is located at the bottom right.

Device Name	Device Type	Capacity
0000:12:00.0	NVME	-
0000:13:00.0	NVME	-
0000:14:00.0	NVME	-
0000:15:00.0	NVME	-
0000:37:00.0	NVME	-
0000:38:00.0	NVME	-
0000:39:00.0	NVME	-

クラスタの導入が完了すると、ONTAP System Managerを使用してベストプラクティスに従ってストレージをプロビジョニングできます。ONTAP ONTAPは、NVMeストレージを最大限に活用するフラッシュ最適化ストレージ効率機能を自動的に有効にします。

≡ **ONTAP System Manager** (Return to classic version)

Search actions, objects, and pages 

**DASHBOARD**

**STORAGE** 

**NETWORK** 

**EVENTS & JOBS** 

**PROTECTION** 

**HOSTS** 

**CLUSTER** 

**ots-nvme** Version 9.7.0

**Health** 

All systems are healthy 

FDvM300 

6 disks      

**Capacity** 

The system discovered 6 disks. When you prepare the disk for provisioning, the system will group the disks for optimum performance and resiliency.

**Prepare Storage**

**Preparing Local Storage.**

 The local storage is being prepared.

≡ **ONTAP System Manager** (Return to classic version)

Search actions, objects, and pages 

**DASHBOARD**

**STORAGE** 

**NETWORK** 

**EVENTS & JOBS** 

**PROTECTION** 

**HOSTS** 

**CLUSTER** 

**ots-nvme** Version 9.7.0

**Health** 

All systems are healthy 

FDvM300 

6 disks      

**Capacity** 

0 Bytes  USED 4.82 TB  AVAILABLE

0% 20% 40% 60% 80% 100%

1 to 1 Data Reduction   No cloud tier

## 著作権に関する情報

Copyright © 2026 NetApp, Inc. All Rights Reserved. Printed in the U.S.このドキュメントは著作権によって保護されています。著作権所有者の書面による事前承諾がある場合を除き、画像媒体、電子媒体、および写真複写、記録媒体、テープ媒体、電子検索システムへの組み込みを含む機械媒体など、いかなる形式および方法による複製も禁止します。

ネットアップの著作物から派生したソフトウェアは、次に示す使用許諾条項および免責条項の対象となります。

このソフトウェアは、ネットアップによって「現状のまま」提供されています。ネットアップは明示的な保証、または商品性および特定目的に対する適合性の暗示的保証を含み、かつこれに限定されないいかなる暗示的な保証も行いません。ネットアップは、代替品または代替サービスの調達、使用不能、データ損失、利益損失、業務中断を含み、かつこれに限定されない、このソフトウェアの使用により生じたすべての直接的損害、間接的損害、偶発的損害、特別損害、懲罰的損害、必然的損害の発生に対して、損失の発生の可能性が通知されていたとしても、その発生理由、根拠とする責任論、契約の有無、厳格責任、不法行為（過失またはそうでない場合を含む）にかかわらず、一切の責任を負いません。

ネットアップは、ここに記載されているすべての製品に対する変更を隨時、予告なく行う権利を保有します。ネットアップによる明示的な書面による合意がある場合を除き、ここに記載されている製品の使用により生じる責任および義務に対して、ネットアップは責任を負いません。この製品の使用または購入は、ネットアップの特許権、商標権、または他の知的所有権に基づくライセンスの供与とはみなされません。

このマニュアルに記載されている製品は、1つ以上の米国特許、その他の国の特許、および出願中の特許によって保護されている場合があります。

権利の制限について：政府による使用、複製、開示は、DFARS 252.227-7013（2014年2月）およびFAR 5225.227-19（2007年12月）のRights in Technical Data -Noncommercial Items（技術データ - 非商用品目に関する諸権利）条項の(b)(3)項、に規定された制限が適用されます。

本書に含まれるデータは商用製品および / または商用サービス（FAR 2.101の定義に基づく）に関係し、データの所有権はNetApp, Inc.にあります。本契約に基づき提供されるすべてのネットアップの技術データおよびコンピュータソフトウェアは、商用目的であり、私費のみで開発されたものです。米国政府は本データに対し、非独占的かつ移転およびサブライセンス不可で、全世界を対象とする取り消し不能の制限付き使用権を有し、本データの提供の根拠となった米国政府契約に関連し、当該契約の裏付けとする場合にのみ本データを使用できます。前述の場合を除き、NetApp, Inc.の書面による許可を事前に得ることなく、本データを使用、開示、転載、改変するほか、上演または展示することはできません。国防総省にかかる米国政府のデータ使用権については、DFARS 252.227-7015(b)項（2014年2月）で定められた権利のみが認められます。

## 商標に関する情報

NetApp、NetAppのロゴ、<http://www.netapp.com/TM>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。